JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

6期—4号

2004.12.10

CONTENTS ♣

はじめに／前野まさる　01
President's Message / Masaru MAENO

2004年次第3回拡大理事会報告（9/25）／山田幸正　02
Reports on the 3rd Meeting of the Executive Board, 2004
Yukimasa YAMADA

姫路でのイコモス研修会報告（9/25）／村上裕道　06
Report on the ICOMOS Seminar in Himeji
Yasumichi MURAKAMI

ICOMOS-CIAV Conference 2004 愛媛会議　報告　07
Reports on ICOMOS-CIAV Conference 2004 in Ehime

前野まさる	Masaru MAENO
大野　敏	Satoshi ONO
佐久間　優	Masaru SAKUMA
高浜壮一郎	Souichiro TAKAHAMA
桝田與一	Yoichi MASUDA
矢下徳治	Tokuharu YASHITA
Chester LIEBS	Chester LIEBS
海外参加者	Foreign Participants
本田智子	Tomoko HONDA

お知らせ／山田幸正　20
Announcement/Yukimasa YAMADA

事務局日誌　22
Diary

CIAV 年次会議

はじめに

前野まさる

なんとも日の経つことの早さに驚く毎日ですが、今年はICOMOS-CIAVの2004年会議を日本で開催することで、その準備に大忙しでした。3年前から日本で開催することが要請され、準備をしていたのですが、日の経つのは早いもので、3年はあっという間に経ってしまいました。

今回の会議はテーマを民家に限らず、町並み、観光まで広げ、さらに会議を一般に公開したので、その手間は大変でした。その手間の大半は、愛媛県と地元の協力、CIAV Associateの大野敏さんの機敏な働きによるものでした。当初、政府の「観光立国、ビジットジャパン」政策に「観光が町の生活を破壊することもある」とクレームをつけていたのですが、今思うと、この政策と地元が町おこしのタイミングとして意識したことが、幸運に働いたことがあるかもしれません。

海外の参加者からは、「会議に先立ち3ヶ所の町を散策し住民から町の説明を受け、質疑応答をしてから会議に臨み、さらにワークショップをしたのも日本の民家保存と住民の対応を知る上で良い参考になった」とのお褒めの言葉をいただきました。

次々と台風の荒れ狂う日本列島で、お天気が一番心配でしたが、22号と23号台風の丁度狭間の良い天気にまぐまれ、これもまた幸いしました。

そんなことで、今期のJAPAN ICOMOS INFORMATION誌の内容はCIAV特集になることをお許し下さい。

2004年次第3回理事会（拡大理事会）報告

2004年次第3回理事会（拡大理事会）が去る9月25日（土）午後1時から3時まで姫路市立日本城郭センター2階特別会議室で開催された。出席者は、委員長：前野まさる、理事：赤坂　信・岡田保良・杉尾伸太郎・田中哲雄・濱崎一志・益田兼房・宮川朝一・矢野和之・山田幸正、国際専門委員：宗田好史・杉尾邦江、陪席：庄谷邦幸・大國晴雄・大窪健之の各氏で、報告事項・審議事項は以下の通りであった。

報告事項

1．第二回理事会報告

JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌第6期3号（9月20日付け発行）を配付し、それにしたがって前回理事会の議事内容が、前野委員長より報告された。

2．小委員会報告

1）第5小委員会（プロヴディフ旧市街保存事業協力班）の近況

［現地会議］去る3月29日から1週間にわたって Bulgarian-Japanese ICOMOS Joint Working Group の「2004年次第1回現地会議」が開催された。その模様については既に報告した。次回現地会議の開催時期は後述する理由から目下のところ決まっていない。しかし、そのための準備作業－文書の起草などーは両国メンバーの分担あるいは共同によっておおむね着実に進んでいる。

［起草中の文書］（1）『重要建造物計8棟の本格修理・応急修理に関する基本方針』：実質的な内容は前回会議でほぼ合意された。成文化の作業を Staneva 委員が担当し、麓委員がこれに協力している。次回会議で採択したのち、リコメンデーションとしてプロヴディフ市ほかの関係官庁に提出する予定。（2）『当プロジェクトの実施過程に関するジェネラルガイドライン』：前回会議で審議した前半部に続き石井委員が後半部の原案を準備中。次回会議で審議を終え、関係官庁の承認を得たのち、広く関係者一般に配布する予定。（3）『建築系・美術系学生の現場研修に関する実施要項』：Krestev, Staneva, Todolov, Tokmakchiev の4委員が共同で原案を作成中である。ジェネラルガイドラインとの整合性に留意しつつ単独の文書として完成させる予定。

（4）『日本の文化財建造物保存工事に適用されている実務指針』：麓委員が矢野委員の助言と本田智子氏の協力を得て英語版を作成中である。次回会議とそれに続くワークショップで配布・解説する予定。

［ユネスコからの送金］ Conservation of Monuments in the Ancient Plovdiv Reserve と名付けられた当プロジェクトは UNESCO/Japan Trust Fund の供与が確定した昨年8月に正式にスタートしたとはいえ、期待に反し、ユネスコからの送金が著しく遅延しているのが実情である。再三にわたる交渉の結果、Joint W.G. の2004年次分経費だけは4月末に送られてきた。プロヴディフ市への送金については、5月末に石井委員がユネスコ本部の担当官 AL 氏に問い合わせたところ『当プロジェクトはベニス支所へ移管された；担当官も交代した』との返事があり、以来、Krestev, Staneva 両委員が新担当官 MPR, AV 両氏と交渉してきたが、長いヴァカンスを挟んで、今なおその送金は実現していない。例えば「チーフアーキテクトの選定」など、プロヴディフ市による初期段階の実務が緒に就くまでは、我々の次回現地会議も開催を延期することになろう。

［日本でのワークショップ］ 来る10月12日から愛媛県下で開催される ICOMOS-CIAV Conference に Staneva 委員が出席し "Restoration and Reuse of Vernacular Buildings in Plovdiv" と題して講演する。第5小委員会は Conference 終了後の10月18・19両日、同委員を招いて、横浜・東京で次のようなワークショップを催すこととした。

18日（横浜）：関家住宅（修理工事中）と三渓園の見学

19日（東京）：討論 "Toward International Exchange of Conservation Expertise"

［訃報］ Joint W.G. の年長委員 Rashel Shelom Angelova 女史が本年7月15日に逝去された。享年74歳。女史は ICOMOS-CIAV の創設提唱者の一人で初代委員長で

あった。また、女史が CIAV 本部の事務局としたNedkovich Houseは、今回のプロヴディフ旧市街保存プロジェクトにおいて応急修理の対象に選ばれている重要建造物の一つである。記して哀悼の意を表したい。

（主査・石井　昭）

3．世界遺産蘇州古典林拙政園にかかわる視察・提言

イコモス本部より標記世界遺産のバッファーゾーン内の施設建設をめぐって現地調査を行なうよう依頼があり、去る6月3日～6日に現地視察を実施し、地元蘇州市関係者との協議を行なった。ユネスコ世界遺産会議の開催が間近であったため、短期間に報告書をまとめ提出してきた。詳細についてはインフォメーション誌6期3号に報告した。以上の通り、矢野理事より報告があった。

4．ICOMOSアジア太平洋地域会議報告

去る7月10日と11日にICOMOSアジア太平洋地域会議が中国・北京で開催され、当初日本から参加者が少ないことを危ぶんだが、結局、7名の方々の参加をみた。西村副会長がこの会議の進行役を務められた。西安で開催される予定の次回ICOMOS総会のメインテーマに「Setting」が承認されたが、「よく受け入れられた」という印象である。また、アジア諸国からの参加が限定的で（日本、韓国、タイ、フィリピン）、オーストリアやカナダの発言が目立ったことも印象に残った。以上の通り、前野委員長より報告された。

5．2004年ICOMOS諮問・執行会議報告

去る9月5日から9日まで、ノルウェーのベルゲンで開催されたICOMOS本部の執行委員会および諮問委員会、さらに国際シンポジウムについて、西村幸夫副会長より文書で以下の通り、報告された。

1）執行委員会（9月5日、9月9日）

① 来年の西安での総会の日程が2005年10月17日～21日と決定した。テーマは "Monuments and Sites in their Setting; Conserving Cultural Heritage in the Changing Townscapes and Landscapes.

② 新しいISCとして、20世紀遺産、保存理論、戦争遺跡の国際委員会の創設へ向けた動きが報告された。

③ 下記諮問委員会の議題④を受けて、国際委員会として太平洋地域委員会が認められた。これはISCとは異なるものの、1国では国内委員会を組織できない国に対する対応として考えられた。過去にISCとしてPolar Regionの例がある。

④ キルギスタン、タジキスタンの国内委員会設立が報告され、規約等を精査して、問題がなければ認めることとした。

⑤ 来年の遺産の日（4月18日）のテーマが「イコモス40周年」と決まった。正式なタイトルは未定であるが、"40 years in service of conserving cultural heritage" といったものになる予定。

⑥ 下記諮問委員会の議題①を受けて、次回総会までの進行が確認された。

⑦ 下記諮問委員会の議題②を認めた。

⑧ 下記諮問委員会の議題③に関して、名称を Guidelines for Presentation and Information of Cultural Heritage（仮称）などと変更して、手続きを進めることが確認された。

2）諮問委員会（9月6日、9月7日）（諮問委員会の役割は、執行委員会へ進言すること）

① 規約改正問題が話し合われ、郵便投票問題と他の問題を切り離して、前者に関して提案を詰めて、次回総会に諮るべきことが決議された。

② 世界遺産パネルにISCの議長を加えることが進言された。

③ インタープリテーションに関するエナメ憲章（エナメはベルギーの地名、その地名にちなむ組織名でもある）の第3次案が議論され、12月末までにさらに各国内委員会及びISCから意見をもらい、これをもとにした第4次案を回覧し、次回の執行委員会（2005年2月）にかけ、認められれば次回総会へかけるべきであることが決議された。

④ 地域ごとの会合があり、アジア太平洋地域では、次回の総会でのシンポジウムの議題に関する意見、太平洋

地域における連合的な委員会結成に向けた進言がとりまとめられた。

3）国際シンポジウム（9月8日）

① ユッカヨキレット氏による「顕著な普遍的価値(OUV)」に関する非常に示唆に富んだ報告がなされた。
② ベルゲン、ウィーン、ラウマ（フィンランド）の各世界遺産都市の抱える問題について報告があった。
③ バッファーゾーン、モニタリング、マネジメントプランの現状に関する報告があった。
④ 概してよくまとめられた議論がなされ、西欧における世界遺産都市の抱える問題が浮き彫りになった。
取り急ぎ、以上、連絡いたします。

（西村幸夫）

6．ICOMOS-CIAV2004年次会議準備進捗状況

すでにインフォメーション誌等で報告きたように、本年10月12日から16日、愛媛県宇和町・大洲市・内子町においてヴァナキュラー建築の専門委員会CIAVの年次会議と国際シンポジウムが開催される予定である。本会議の主催は日本イコモス国内委員会およびICOMOS CIAVで、国土交通省四国運輸局、（財）UNESCOアジア文化センター、特定非営利活動法人全国町並み保存連盟に共催をお願いした。また、後援団体としては、文化庁、愛媛県町並博2004実行委員会、大洲市、西予市、内子町、（財）文化財保護・芸術研究助成財団、（財）文化財建造物保存技術協会である。さらに、国立高等専門学校機構弓削商船高等専門学校にはポストツアーでご協力をいただき、大塚製薬株式会社に協賛いただくことになっている。CIAVアソシエイトメンバーである大野　敏委員を中心に開催にむけて万全の準備をしているところである。前野委員長より、以上のように報告された。

7．平城京を守る会からの問い合わせ

去る8月13日、「高速道路から世界遺産・平城京を守る会」の事務局長、小井修一氏より以下のようなファックスが送られてきた。「中国・蘇州で開催された第28回世界遺産委員会で、4項目の日本政府案決議が採択されました。その際、第3項について日本政府が修正動議を出し、修正されました。① この修正について、日本政府が日本イコモス国内委員会と相談されたかどうか、② 相談しなくてもよいルールになっているものと理解していますが、その通りで良いのかどうか。以上、2点について、教えていただければと思います」

これに対して、8月16日、「この修正動議について日本政府からの相談は、ありませんでした。また、世界遺産委員会の決議およびその修正について、当国内委員会に対しての事前の協議等はルール化されていないと承知しております」と文書で回答した。以上の通り、矢野理事より報告された。

1．退会者および入会者の承認

退会者

氏　名	事　由
石川忠臣	本年6月2日ご逝去 1974年に全国町並み保存連盟を創設

入会者（個人）

氏　名	所　属	推薦者
岩本由美子	（社）日本ユネスコ協会連盟 教育文化事業部	前野まさる・矢野和之

以上、これまでに申請のあった上記新規個人会員の入会について、資料を回覧し、かつ慎重に審議した結果、これを承認した。

2．後援名義使用の承認

① 産業観光国際フォーラム

TICCIH（国際産業遺産保存委員会）日本委員会が主催する標記国際フォーラムは、来年7月にTICCIH中間

会議2005を兼ねて、来年開催予定の愛知万博との関連で、名古屋において開催されることになった。昨年7月はロシアのタジルで開催し、その際、Nighny Tagil Chaterを採択した。今回の会議には外国から100名程度の参加者が見込まれている。概要は以下の通りである。

日　程：平成17年7月6日～8日

会　場：名古屋国際会議場

テーマ：産業観光の新たな展開―産業観光と地域づくり

以上の通り、日本委員会前代表の庄谷邦幸氏（桃山学院大学名誉教授）より、文書と資料に基づき後援依頼があり、審議の結果、これを承認した。

②DOCOMOMO「文化遺産としてのモダニズム建築展」

先にDOCOMOMO100選に選定されたモダニズム建築100件に関する展示会に対する後援名義使用の依頼が、DOCOMOMO JAPAN委員長、鈴木博之氏から、8月26日付けの文書で寄せられた。

展示内容：DOCOMOMO JAPANにより選出されたモダニズム建築100件をベースにする。

期　　間：2005年3月12日～5月8日

会　　場：松下電工汐留ミュージアム

審議の結果、これを承認した。

協議事項

1．小委員会の活動について

最近の小委員会の活動について、休眠状態であるものがあるのではないかという意見が寄せられていることが、前野委員長より報告され、これについて協議した。各小委員会に対しての活動状況を報告してもらうよう促すとともに、その存廃について検討していくこととした。

2．アジア太平洋地域のイコモスネットワークについて

アジアの木造建築を主流とした建築遺産の保存問題は、欧米と異なる自然環境にあるアジア地域で論議を深める必要がある。しかし、ICOMOSの会議ではアジア地域からの委員の参加が極めて少ないのが現状である。太平洋地域を加えると、オーストラリア、カナダ、アメリカの考えが強く反映してしまう。今後、アジア地域における建築遺産の問題について協議をどのように展開していくべきかについて協議していただきたい。以上のような発議が前野委員長よりなされた。これに対して、さきのベルゲンの執行委員会で承認された国際委員会としての太平洋地域委員会とは異なるものであるのか、これとは異なるものが提案されているなら、それらの整合性・調整をどのようにはかるかが問題ではないか、「アジア」「木造」、「建築」に限定しているのか、ISCごとで別々ではなく、それらを合同してアジア全体で集まることは意味があるのではないか、などの意見が出た。今後、協議を進めていくこととした。

3．2005 ICOMOS北京総会における次期副委員長の選出について

ICOMOS副会長の西村幸夫氏の任期は来年の北京総会で任期満了となる。韓国ICOMOSも立候補者を立てる模様である。西村氏の後任者について協議していただきたい。以上のような前野委員長からの発議に基づき、協議した。前野委員長および西村副会長を中心に人選を進めていくこととした。

4．2005 ICORP (RISK PREPAREDNESS)会議について

防災に関するアジア・太平洋地域会議の開催を、来年1月国連主導により（ユネスコ、イクロム、文化庁などの主催）神戸で開催される予定の会議にあわせて準備中であったが、ICOMOS本部事務局長から当該ISCの設立会議として来年北京総会の時に開催してはどうかという提案があり、現在、保留されている状況になっている。以上の通り、益田兼房理事より報告があり、若干の協議がなされた。

5．会員関係の会則改正案の検討について

前回理事会でも議論された学生会員・準会員・友の会

など会員に関わる会則改正案のたたき台を会員担当の理事で協議した上、次回の理事会・総会に諮りたい旨の意見が杉尾伸太郎理事よりあった。

6．日本イコモス国内委員会ホームページについて

ホームページ用のコンテンツの原案が山田理事より示された。ホームページの内容について議論する前に、その意味や方針といったものを決めるべきではないか。つまり、積極的にアピールするためのページをつくろうとしているのか、それとも「一応あればいい」程度のものか。後者の場合でも、最低限のコラムは必要でそれは誰が担当するのか。それぞれの国際専門委員会や小委員会から、ホームページ用の原稿をいただくことになる。また、英文のページは必須であると考えられる。また、適宜情報を書き変えなければならない部分を明確化する必要があり、その部分は最小限となるように考えなくてはならない。質問や問い合わせに対する対応をどのようにするか、など解決しなければならない問題点が提起された。実際の作成を業者に委託した場合の費用は寄付金などで賄うことも検討してはどうかという意見もあった。

次回理事会の開催

次回理事会および本年度の総会は、12月11日（土）に東京で開催されることとなった。

（文責：山田幸正）

イラスト(全て)／前野まさる

姫路でのイコモス研修会の報告

兵庫県教育委員会　村上裕道

イコモス国内委員会では、日本の世界遺産が12件になり、会員が各遺産の価値を理解するとともに、各地の課題等を今後の保護施策に反映するため、世界遺産登録地で研修会を開催することといたしました。本年度は、姫路城の所在する姫路市で開催し、市民と共にその保護のあり方を研修いたしました。今回の研修会の準備を担当した村上から報告します。

日　時：平成16年9月25日（土曜日）10：00～20:00
場　所：姫路城・姫路市立日本城郭センター会議室・イーグレ姫路「ミレ」
次　第：10:00～11:30姫路城見学会（チケット売り場前集合）
11:30～12:30昼食（城郭センター内レストラン・各自）
12:30～15:00理事会（城郭センター特別会議室・2F）
15:30～18:00研修会（同大会議室・2F）
18:30～20:00懇親会（イーグレ姫路・4Fミレ）
内　容：

（1）姫路城見学会

世界遺産登録後に行なわれた姫路城の防災施設の改修を初め、各種の改善状況を視察した。小学校の一クラスの広さで設計した研修室及び24時間監視の防災監視室を見た後、城内の日本語・英語・韓国語・中国語で標記された案内板配置計画の説明を受け、そして、天守閣を中心とするスプリンクラー設備の設置状況を見学した。また、登録後に30年の中期修理計画を作成するとともに左官技術の伝統技術に関する研修のため姫路市が研修事務局を担当していること、そして、本年には城石垣等の研修会を発足したこと等の説明を村上から受けた。

（2）研修会

前野まさるICOMOS国内委員会委員長、嗟峨徹姫路市助役の挨拶の後、「報告1 姫路城の管理・維持修理について」姫路市教育委員会文化課村田和宏課長補佐の

報告、「報告2 阪神淡路大震災と文化財」と題して、会員の足立裕司と村上から報告した。

報告1では、村田は、世界遺産の保全状態の測定に係る指標について、①登録資産の保護措置に関して、文化財保護法及び条例による保護の状況、管理計画・整備計画及び地域住民との連携協力体制、②登録資産の保全状態に関して、登録資産の毀損、修理（建造物修理・史跡整備）、防災管理状況及び現状変更行為の状況、③緩衝地帯の関係法令と利用規制の状況、④調査研究状況、⑤教育・普及・啓発・活用について、世界遺産に関する紹介・情報提供の内容及び学校教育との連携状況、⑥保存管理体制、⑦監視活動状況、⑧交流の状況について概説した。

報告2では、村上は、「文化財建造物の補強と人材養成」を副題として、先の震災による指定文化財の被害状況及び全体の修理経緯を示した後、地域に多量に存在する歴史的建造物の喪失は、地域の表現手段の喪失につながるとして歴史的建造物修理の助成事業を行なった経緯を述べた。

しかし、その実施においてマンパワーの不足、経済的な修理技術力の不足から二重の意味で復旧が難しかったことを説明し、その改善策として、登録文化財を発見し・修理し、まちづくりに活かすヘリテージマネージャーを地域で活動している建築士から養成を行なっていることを説明した。

また、足立は、「未来に活かしていくために」を副題として、神戸居留地周辺の歴史的建造物の残存状況を例示し、オリジナルの状態で連続する所が極端に減少したことから「地」としての歴史的雰囲気を失った「絵」の指定文化財が孤立したことを指摘した。そして「失われてわかる何気ない歴史的環境」が重要であり、時間の経過とともに地域の共有材として公共性を増した、未指定の歴史的建造物も継続的な環境への貢献（歴史遺産の活用）として、保存・再生する取組み・手法が必要であるとし、歴史的環境（景観）を司る都市計画分野と文化財分野のさらなる連携への期待を述べた。

なお、懇親会では、ライトアップされた姫路城の夜景を見ながら懇談した。

ICOMOS CIAV2004 愛媛会議報告

日本イコモス国内委員会　委員長　前野まさる

2004年10月12日より16日まで愛媛県で開催されたICOMOS-CIAV（国際記念物遺跡会議-民家委員会）2004愛媛会議について、以下報告致します。

［参加者］

海外の参加者：14ヶ国25名（Australia 2, Bulgaria 1, Canada 3, China 1, Finland 2, Germany 2, Guatemala 1, Hungaly 1, Macedonia 2, Mexico 1, Norway 2, Sweden1, Taiwan 1, Thailand 3, USA 2）

国内参加者：イコモス関係者約20名

その他一般関係者　約150余名

参加者総計：約200余名

［会議主題について］

2004年のCIAV会議の主題は"Sustainable Conservation System for the Vernacular Architecture, Historical Towns and Villages"で和訳すると「歴史的伝統的民家・町並みの持続可能な保存方策について」となる。

民家建築は単体としてのみならず、町並み・農村景観を形成する地域レベルにおいて、生活環境まで含めて継承していくことが重要である。その実現のためには「すまい手」の自主的かつ積極的な活動を、「行政」・「保存の専門家や運動家」が適切にサポートする連携体制が不可欠である。日本には1950年代以降、地域に根ざした町並み保存運動がいろいろ試みられ、各地で大きな成果をあげてきている。その実績や蓄積は全国町並み保存連盟の活動に代表される。その一方で、価値観や生活様式はグローバル化し、観光地化と生活環境の共存問題、建物維持管理の問題、生活基盤や後継者の問題など課題が多くあり、地域遺産と景観を物心両面で継承していくためには「持続可能な保存の方策」を国際的に論議する必要があると考えたからである。

[会議の公開]

今回のCIAVでは、歴史的伝統的民家・町並みの持続可能な保存方策について町並保存の運動家、地域住民、行政と国際的な専門家が、彼らの経験を通じ、研究・討議・交流を行ない、将来に向けて保存の有るべき方策を探ることを目的としている。従って今回のCIAV2004は民家・町並み保存の現地において地域の人々をはじめ行政や専門家とCIAV委員が直接交流する機会として、会議を一般に公開した。

[日程とプログラム]

会議の日程は12日～16日の5日間

10月12日（火）：　海外参加者の登録　歓迎会

10月13日（水）：　「町並み見学交流会」西予市（宇和町）、大洲市、内子町をまわり、地元保存関係者の説明と質疑応答を行なった。

＜宇和町＞　宇和街道の宿場町として形成された町が、明治以後新道建設に伴い、町の核が移動し歴史的地区の活性が失われてくる。町並み保存によって旧道地域に活性を戻すよう住民もやっと気がついてきた。

＜大洲市＞　大洲のおはなはんの町並みおよび臥龍山荘の見学をする。海外の委員から「裏通りの町並みに伝統的で活気のある町並みがある。指定すると活気が失われているように見える。」との意見が前野のもとに寄せられた。一考を要する。

＜内子町＞　日も暮れて、行灯、提灯のかかる町並みの散策、上芳我家でガイダンス。町並みアンケートで保存指定の感想を求める。30%＝良かった（前野意見30%は好成績）、6%＝否　歴史的建築と非歴史的建築の判断基準について論議。

10月14日（木）：　「国際シンポジューム：歴史的民家・町並み保存を語る世界の集い」を内子町内子座で行ない、伝統芸能和太鼓に続き講演とシンポジューム

基調講演：CIAV委員長マハット氏、文化庁建造物課長　苅谷氏

特別講演：

セッション1：「地域づくりと歴史的民家・町並み保存」特別講演5題；岡田文淑氏（内子町）、スジット・サナンワイ（タイ：ランジット大学助教授）、マーク・ド・クラフ（カナダ：政府公園管理局）、マイルス・ルイス（オーストラリア：メルボルン：大学教授）、福川裕一（千葉大学教授）

セッション2：「歴史的民家・町並みの修復活用」特別講演5題；フリスティナ・スタネバ（ブルガリア：ICOMOS副委員長）、ペーター・ナミチェフ（マケドニア：マケドニア美術館）、スペンサー・ラインウェーバー（アメリカ：ハワイ大学教授）ギール・ジャックヘルン（ノルウェー：建築家）、梶山秀一郎（京町家作事組理事長）

セッション3：「観光と歴史的民家・町並み」特別講演4題；山村高淑（京都嵯峨芸術大学助教授）、レナ・パルンクヴィスト（スエーデン：ノルディック美術館）、ヴィクトリア・モメヴァ・アルティパルマコフスカ（マケドニア：文化遺産保護協会）、宗田好史（京都府立大学助教授）

質疑意見交換

10月15日（金）：　「国際町並みサミットin愛媛：観光と共生する持続可能な歴史的町並保存について」では、宇和、大洲、内子の3ヶ所に別れて各地が抱えている問題を中心にワークショップを行ない、午後に内子に集合して、ワークショップのまとめを行なった。

＜第1部＞

[大洲市]：コーディネーター/宗田好史

来賓挨拶/舛田　興

地元発表者/菅野隆次、河野達郎

観光客は大洲を心が落ち着く町と評価、保存地域について裏通りに昔のままの本当の生活が残っているが保存地域の拡大はどうか、空家の活用の考えはどうかの論議。土蔵の修理について、漆喰の修理とオーセンティスティ、どこまで本物かの論議。

[内子町]：コーディネーター/山田幸正

地元発表者/大西啓介、神山美雄

観光重視から地域住民の生活の安定が求められる。保存地区対商店街との利害問題。

[宇和町]：コディネーター/福川裕一

来賓挨拶/三好藤治

地元発表者/渡邊千枝、名本東海子

観光について、人数のコントロールと節度ある観光が必要。建築の修理について、歴史的非歴史的の修理の方法は、修理のガイドラインが必要となる。

＜第2部＞

はじめに、国土交通省四国運輸局長　佐久間優氏より観光と町並み保存の取り組みについて、CIAVの会議の成果をふまえ町並み保存と共存連携して、観光・交流活動にむけた取り組みを進めていきたい旨挨拶された。

3地域のコーディネター　大野　敏（大洲市）、山田幸正（内子町）、福川裕一（宇和町）より各地域の討議のまとめが報告され次いで特別講演に移る。

特別講演3題：チェスター・リーブス（アメリカ：ニューメキシコ大学教授）、クリスティ・コバネン（フィンランド：南サボ地区環境センター）、バレリア・プリエト（メキシコ自治大学）

＜討論＞

民家修理について：日本の修理は壁をとり壊しているが、どこまでが真正の壁なのか壁の古い材料はどうするのか、漆喰を上塗りすると全部新しくなる、など町で見かける壁の修理法に関心が集まっていた。フィンランドのコーバネンさんより、フィンランドでは修理センターを置き、保存の情報を出している。修理価格が安く、共同作業で5年毎に修理する。その結果伝統的建築が復活した。

観光について：ハンガリーのロマン氏より観光業より伝統的町並の助けになる事業を行うと地域経済の発展にもつながる。水準を越えると害になるので注意が必要である。内子はまだ水準に達していないが観光には注意が必要である。地元住民より、地域の誇りがもてるよう精神的生活を大切にしている。観光は副業である。外部参加者より、新しい観光のあり方を考える必要がある。観光の質を高め価値と関心を高めるようにし、さらに他の町並とのリンクを考える必要がある。日本システム矢下氏より、近年観光客の質的変化が見られる。

町並みについて：海外参加者より、保存地域は活性が消え、昔のままの本物の生活が裏通りに残っているのには興味が持たれる。保存の仕方に問題はないか。内子住民より、内子は町並保存で大きく変わった。マケドニアのヴィクトリアさんより、内子の保存はとても成功していると思う。観光のためにも建て直しは成功していると思う。

10月16日（土）　午前中ICOMOS CIAVの年次会議を行ない、午後からのポストツアーは弓削商船高等専門学校のお取り計らいで「御手洗、弓削を巡る」島嶼の視察、特に弓削の秋祭りの奴行列はなかなかの物だった。海外からの委員諸氏も感動されていた。

10月17日（日）　午前中鞆の浦視察、午後18号台風で被害を受けた宮島の厳島神社を視察。日本の都市・建築に及ぼす危機が地震や火災ばかりでなく、台風災害の大きさを目前にして色々と質疑があった。「台風は歴史的に毎年あったのにその対応はどうなっているのか」「伝統を大切にしてその都度修理している」では納得しそうになかった。

反応と成果

今回のICOMOS CIAV 2004愛媛の会議について、CIAV委員長Machat氏から「CIAV2004の会議は今までで最高に良かった。」との評価を受けた。同様の評価は海外から参加した多くの委員から「興味ある素晴らしい構成と進行だった。」「世界の専門家と地域住民とが直接話しあえる企画は、民家と町並みの抱える問題を直接理解でき良い方法だ。」との評価もいただいた。「帰国してから自国で試みたい」との感想もあった。

こうした国際的評価を戴けたのも愛媛県、西予市（宇和町）、大洲市、内子町の地域行政と住民のご協力、国土交通省四国運輸局、ユネスコアジア文化センターの多大なご支援と全国町並み保存連盟のお力添え、3地域の住民参加と協力があって初めて出来たのであって、深く感謝申しあげる。

ポストツアーに弓削商船高等専門学校が練習船をご提供くださり、御手洗町の重要伝統的建造物群と弓削町の町並みと独特な奴行列は我々日本人も知らなかった秋祭りで、めったに得られない機会を日本人ばかりでなく14ヶ国の世界に見せていただき感動と感謝で一杯である。また、会議が台風20号と22号の隙間にうま

く収まり、天気に恵まれたのも幸運中の幸運とお天気に感謝している。

以上のように、ICOMOS-CIAV 2004愛媛の会議に多くの良い評価を戴けたのも、偶然に出会った愛媛県の町並博担当の門田氏との出会いを除くわけにはいかない。愛媛町並博2004の成功を目指す門田氏と住民と交流できるCIAV2004の会場探しに躍起になっていた私とが、2002年9月3日の全国町並み保存連盟事務所で突然会い、町並博の支援の相談に来られ、話をしているうちに願ってもない機会と思い、ICOMOS-CIAV開催の話をした。門田氏も興味を示し、住民、行政を巻き込むCIAV構想が始まった。すぐさま英文の企画書を作成し、2002年12月のバルセロナ会議にICOMOS-CIAV 2004愛媛の企画を提案し、同意をえた。アソシエイトメンバーの大野敏先生の力強い協力を得て、2003年中は予算獲得に奔走。5月にはCIAV委員長のマハット氏を愛媛に案内し、具体的に現場を見てもらい、意見交換もした。

その後、文化財保存・芸術研究助成財団、松山コベンションセンター、UNESCOアジア文化センタ、国土交通省四国運輸局などからの資金援助も決まり、CIAV会議の事務処理はイベント＆コンベンションハウスが引き受けて下さり、会議進行には日本イコモス国内委員の皆さま、何かあるといつも呼びだされる福川、宗田、山田、赤坂の諸先生、通訳の労をおかけした本田、丹羽、山内、老の各女史、終始スタネーバ女史のお世話を戴いた石井前委員長、その他大勢の方々のお世話になった。私のノートには似顔付きの名刺が103枚ある。皆お世話いただいた方々である。このページをお借りしてお礼を述べさせて戴きたい。

テクニカルツアー　大洲の町並み見学

ICOMOS-CIAV Conference 2004

横浜国立大学　大野　敏

The ICOMOS-CIAV Conference 2004(CIAV2004年度年次会議)が、平成16年10月12日(火)～16日(土)の期間、愛媛県において開催されました。主催は日本イコモス国内委員会、共催は（財）UNESCO・アジア文化センター・国土交通省四国運輸局・特定非営利活動法人全国町並み保存連盟、後援を文化庁・愛媛県町並博2004実行委員会・大洲市・西予市・内子町・（財）文化財保護芸術研究助成財団・（財）文化財建造物保存技術協会からいただき、国立高等専門学校機構弓削商船高等専門学校からご協力、株式会社大塚製薬工場からご協賛いただきました。ご指導およびご協力いただいた関係者の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

以下、少し長くなりますが、今回の年次会議について発端と準備経緯を中心にご報告したいと思います。

CIAVすなわち民家建築委員会（Comité International d'architecture vernaculaire）は、例年テーマを決めて年次会議を開催しています。この年次会議は、各国の専門家が民家建築の保存継承や将来について活発に意見交換する場として重要な役割を果たしています。2003年は“The Future of Historic Farm Buildings in A Changing Society（変化する社会における農家建築の将来像）”をテーマにオランダで開催されています。

2004年に日本でCIAV年次会議を開催するに当たり、VOATING　MEMBERの前野先生が選定されたテーマは「持続可能な民家建築と歴史的町並・集落保存の方策について“Sustainable Conservation System for the Vernacular Architecture , Traditional Historical Architecture and Villagers ”」でした。

その主旨は、①民家建築は町並み・農村景観等の地域レベルにおいて、生活環境まで含めて継承すべきである。②その実現のため「すまい手」の自主的かつ積極的な保存活動を、「行政」・「保存の専門家や運動家」が適切に支援する連携体制が不可欠。③日本では地域に

テクニカルツアー　宇和町　開明学校でガイダンス

根ざした町並み保存運動がいろいろ試みられ、大きな蓄積がある。④その一方グローバル化の名のもとで価値観や生活様式の安易な画一化指向も根強く、町並み保存の対象拡大は新たな工夫が必要。⑤町並み保存の先進地でも、観光地化と生活環境の共存、建物維持管理、生活基盤や後継者など、保存活動を物心両面で持続していくためには課題がある。⑥こうした点をふまえ、日本の町並み保存の現場に世界各国のCIAV委員や国内の町並み保存関係者を招いて、地域での活動実績や課題・保存修復技術に関する意見交換を行なったならば、「地域生活に根ざした持続可能な民家建築と歴史的町並・集落保存方策」に関して具体的かつ実質的な議論が可能となるというものです。

そこで一番問題となったのが、開催地をどこにするのかということです。しかし絶妙のタイミングで開催地が決まりました。前野先生のもとに愛媛県町並博2004実行委員会の門田泰広さんが相談に見えたのです。「えひめ町並み博2004（2004年4月～10月開催）」の準備を進めていた門田さんは、会期中に町並み保存に関するアカデミックな会議を招聘したいという希望を持っていました。

「えひめ町並み博2004」は、愛媛県下の内子町・西予市・大洲市を中心に「地域が継承してきた物心両面の価値を、地域の人たちが自ら再発見する」博覧会で、新たな施設建設に頼らず「町並み」をキーワードに地域の潜在力を引き出そうとする試みです。内子町は重要伝統的建造物群保存地区として長年にわたる実績を持っており、最近重要文化財本芳我家住宅の根本修理に着手したところです。西予市（旧宇和町）は伝統的建造物群保存地区を制度化し、次の段階へ向かって地域の活力が注目されています。大洲市は木造伝統工法による天守再現が城下町のシンボルとして注目を浴びていますが、現存する町並みは近世の町割りに明治・大正・昭和の繁栄の歴史を刻んでおり、その連続性が町づくりの重要な鍵です。このように上記3市町は、町並みについてそれぞれ異なる条件を持ち保存段階も異なりますが、「地域生活に根ざした持続可能な町並み保存」を目指している点は共通しています。したがってこの3地域は、今回のCIAV年次会議「持続可能な民家建築と歴史的町並・集落保存の方策について」の開催地として願ってもないものでした。

こうして門田さんという頼もしい味方を得て前野先生の基本計画づくりが始まったわけですが、前野先生には従来のCIAV年次会議で見られなかったいくつかの新アイディアがありました。

一つは、日本の町並み保存の実態をCIAV会員に直接知ってもらうためにテクニカルツアーを最初に行ない地域と交流することです。もう一つは、年次会議の際に2日間ほど行なわれる研究発表会を一般公開形式とすることです。「地域の人々や町並みに関心を持つ多くの人たちとの交流」を町並み保存のモットーとする前野先生ならではの発想です。

私は大河直躬先生のお薦めにより昨年CIAVのASSOCIATE MEMBERに加わらせていただき、12月から準備のお手伝いをすることになり、前野先生・門田さんと3人による実質的な事務局作業が始まりました。主な分担は前野先生が全体企画・監修と協力依頼・助成金申請、門田さんが地元の支援協力体制を含めた連絡調整全般、大野がプログラム企画調整でした。門田さんは愛媛県の職員ですが、CIAV年次会議の準備事務局長的な存在で大いに助けていただきました。

基本日程は、第1日目関係者集合、第2日目テクニカルツアー、第3～4日目は研究会、第5日目はCIAV会員による年次会議です。そして今年1月と3月に3市町

にお邪魔して現地を拝見させていただき、テクニカルツアーの具体的な内容と2日間の公開研究会のイメージを固めていきました。テクニカルツアーは一日で3カ所を巡るので、いかに的確に地域の特色と課題を情報提供できるか、そのための人選と内容を絞り込むのに労力を使いました。公開研究会は主会場を内子座に想定しました。そして1日目は「民家町並みを語る世界の集い」と題した国際シンポジウムとし、基調講演に加え「地域づくり」・「修復活用」・「観光」のいずれかの観点でCIAV関係者と国内参加者から事例発表をしていただき、「持続可能な民家建築と歴史的町並・集落保存の方策」について意見交換するというものです。そして2日目は「地域づくり」・「修復活用」・「観光」の観点ごとに分科会を設け、地域の人たちも交えて現地の具体的事例をもとに意見交換を行ない、相互理解を深めようというものでした。また、会議後は重要文化財・本芳我邸修復現場を見学して日本の修復技術についてもCIAV会員に理解を深めてもらうことにしました。

そして5月初旬にCIAVのマハット委員長が来日され、愛媛県への挨拶と年次会議開催の報道発表、年次会議のプログラムと会場を確認されました。その中で、「せっかく3つの特色ある会場があるのだから、研究会2日目は3つの会場で意見交換会を行なってはどうか」と提案されました。たしかにテクニカルツアーで3会場を見学し地域と交流する機会を持つのだから、それぞれ興味を持った町で意見交換する機会を持つ方が、参加者も地域も望ましいでしょう。ただし、そうなると会場準備・移動・通訳など経費や準備の面で相当な負担増となります。そんな中、国土交通省四国運輸局が「歴史的資産や文化的資産を活かした本物の観光」の振興について興味を持っているという情報が門田さんからもたらされました。そしていろいろ話し合った結果、研究会2日目を国際町並みサミットin四国「観光と共生する持続可能な歴史的町並み保存について」とし四国運輸局が共催してくれることになりました。町並み保存にとって観光問題は避けては通れません。そうであれば「持続可能な歴史的町並み保存方策」を主テーマに掲げる今回のCIAV年次会議において、観光と共生する町並み保存を真剣に議論しておくことは重要です。こうして2日目の前半は3地域にわかれて地域の人たちからの町並み保存や観光問題に関する考え方や話題提供をいただき、これに対してCIAV会員や参加者全体で意見交換を行い、後半はこれらの内容を内子町会場に集約して全体討議とすることになりました。

プログラムの骨子が固まったので、CIAV会員への参加の呼びかけと講演希望を募る段階となりました。基調講演は日本から文化庁建造物課長・苅谷勇雅氏、CIAVからはマハット委員長にお願いすることにしました。また、「地域づくり」・「保存修復」・「観光」の観点からそれぞれ国内発表者はあらかじめ想定させていただきました。すなわち「地域づくりは」内子町の岡田文淑氏と千葉大学の福川裕一氏、「保存修復は」京町屋作事組理事長の梶山秀一郎氏に、「観光」は京都府立大学の宗田好史氏です。これにCIAV会員からの事例発表を組み合わせていく予定でした。しかし例年ならば数題の発表申し込みのところ、今回は研究発表会を一般公開形式としたことでみなさん張り切ったのか13題もいただきました。前野先生と相談の結果、全員に発表していただきたいという結論となり、13題中3題は2日目の総論的発表として扱わせていただき、残り10題を3つの観点(セッション)に振り分けました。結果として当初1人当たりの発表時間を20～25分としていたものが15分に短縮することになってしまいました。

CIAV会員を中心に海外からの専門家は14カ国25名が参加され、2日間にわたる一般公開の研究会（国際シンポジウムおよび国際町並みサミットin四国）には延べ200名以上の参加をいただくことができました。

残念ながらテクニカルツアーおよび2日間にわたる研究会とも過密気味なスケジュールとなってしまい、参加者の方には窮屈な思いをさせてしまったと反省しています。せっかく世界中から専門家が集ったのだからもっとじっくり話を聞きたかったという感想もありました。しかし、各発表者の方が時間を守って適切な発表

をしていただけたので、意見交換には相当な時間がさけました。

また、２日目の研究会は住民の方からお話をうかがって議論を進めることができたので、地域を巻き込んだ保存議論を実現できたと思います。内子町では保存地区内外の住民意識について、宇和町では滞在型観光を意識しつつも生活文化を基盤とした「おもてなし」について、大洲市では地域再発見と保存を担う人的資源について、CIAV会員からの発現にとどまらず参加者全員で活発な意見交換がなされました。さらに2日目のまとめの段階で、国土交通省四国運輸局が「観光と共生する歴史的町並み保存」に関する真摯な行動目標を発表されたことも、今後の町並み保存にとって大きな意味を持つと思います。

ところで、1日目の研究会後に企画した会費制の懇親会も予想以上の参加者で、本当の意味で世界の人々が「交流」できたといえます。内子座の雰囲気とアトラクション、夜の上芳我邸での歓迎レセプション、灯火や写真パネルによる「お接待」もすばらしいものでした。

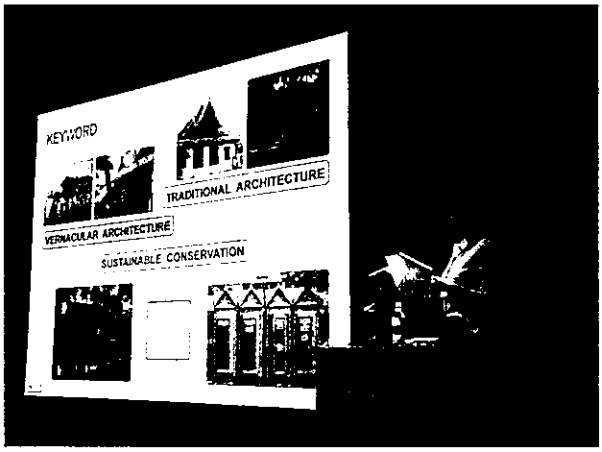
なお、年次会議後にはポストツアーも準備されており、希望者は瀬戸内海を船で横断して重要伝統的建造物郡保存地区の御手洗を見学したのち鞆や宮島を訪れることができました。この旅については本田智子さんからご報告いただきますので省略したしますが、前野先生のご尽力で特別船チャーターによる弓削町経由のすばらしい内容だったようです。

最後になりましたが、愛媛県町並博2004実行委員会の沖　志さん・門田泰弘さん・仙波康彰さん・安藤公一さん、内子町の大野千代美さん・大本美貴男さん、西予市の鈴木友三郎さん、大洲市の武田康秀さん・栗田浩治さん・畑野亮一さん、国土交通省四国運輸局の西本照文さん、英文資料をご用意いただき本芳我邸の修復現場を丁寧にご説明いただいた（財）文建協の木下　純さん、そのほか裏方に徹していただいた多くの地元の方々に改めて感謝申し上げます。

また、各発表者の方々をはじめ、ご参加いただきご指導いただいた日本イコモス国内委員会の伊藤延男顧問・石井昭顧問をはじめ赤坂信委員・山田幸正委員、適切な助言をいただいた矢下徳治さん・大橋竜太博士・王恵君博士、見事な語学力で運営を助けていただいた本田智子さん・丹羽康子さん、事務方を一手に引き受けてくれた森川敬一さん、矢島知恵さん・蓮池理香さんはじめ（株）イベント・コンベンションハウスの方々にお礼申し上げます。

そして、このような大きな国際会議を資金面でも人的面でも遣り繰りなさった前野先生に対し、大変よい経験をさせていただきましたことを深く感謝いたします。

テクニカルツアー　宇和町　開明学校でガイダンス



国際シンポジウム「民家町並みを語る世界の集い」　内子座にて

「国際町並みサミットin愛媛」の成功を承けて

国土交通省四国運輸局長　佐久間　優

愛媛県南予地域の内子町、大洲市、西予市（宇和）を舞台として10月15日に開催されました「国際町並みサミットin愛媛」が多くの参加者を得て、熱心な討議が行なわれ、成功裡に終了したことを共同主催者として感謝申し上げあげますとともに、前日の国際シンポジウムに引き続き、サミットを主催、主導された前野委員長をはじめ、日本イコモス国内委員会の皆様の活動にあらためて敬意と感謝を表したいと思います。

また、地元関係者の活動と尽力に対して、この誌面を借りて敬意と感謝を申し述べます。

私どもは、“住んで良し訪れて良しの観光地”、“まちづくりにつながる観光”という考え方に基づいて、時代の変化に対応した観光行政を進めるなかで、本年4月から10月までの期間、南予地域全域で開催された他に類をみない全く新しい住民参加型・まちづくり型博覧会「えひめ町並博2004」を支援しつつ、60をこえる四国内の歴史的町並み地区を上記の考えに基づいて四国の誇るべき観光・交流の題材として情報発信すべく模索してきました。今回の「国際町並みサミットin愛媛」の開催は、愛媛県町並博推進課の多大なご尽力によって、日本イコモス国内委員会のご理解・ご協力を得て実現に至ったものです。

サミットでは、海外の専門家、地元関係者をはじめ多くの参加者を得て町並み保存をめぐる課題と対応、観光との共存などをテーマとした事例発表と討議が行なわれるなかで、

■町並み保存は、歴史文化の保存であり、地域の誇りを取り戻す役割がある。

■町並みとその文化をテーマに観光客が訪れることにより、地域の活性化に寄与、地域に夢と希望を与える。

■観光客の急増によって、外部資本の参入、地域の生活環境破壊等が生じるなどの問題があり、公共交通の活用を含めた町並み保存と観光との共存を地域住民、行政、観光関係者が真剣に考える必要がある。

■町並み保存と連携した「本物の観光」を根づかせるためには、地域住民、行政、専門家、愛好家の連携が不可欠である。

など、町並み保存、及びこれと共存する観光のあり方に関する多くの示唆を得ることができ、こうした内容は「四国宣言」として参加者によって共有化されました。

町並博を通じて地域住民が地域の魅力を自分たちの力で向上させる取り組みが本格化する中で、町並みを活かした地域の取り組みが全国的・世界的にも注目されたことにより、地域の魅力を再発見、再認識する良い機会となり、我が町に愛着を持ち、ややもすると沈みがちな地方都市が自信を持つ契機となったことと思います。

私ども四国運輸局では、「四国宣言」の趣旨を踏まえ、観光と地域の関わり方、町並み保存に取り組む地域の方々の思いを念頭に、今回の「国際町並みサミットin愛媛」で得られた成果を四国から全国に発信するとともに、今後、町並み保存と観光、交流との新しい共存を実現するために、地域、自治体、専門家、観光関係者、支援団体等と連携し、持続可能な観光交流の具体化に向けて取り組みたいと考えます。

→開催関係者からのコメント

愛媛県経済労働部長
愛媛県町並博2004実行委員会事務総長　高浜壮一郎

今回の世界会議が、町並みに象徴される南予地域の魅力を伝える「えひめ町並博2004」に合わせて開催され、当地域の世界的な情報発信につながったことは、誠に意義深く、喜びに堪えません。

また、これまでにない画期的な試みとして、一般公開型で会議が開催され、世界の専門家と地域住民との直接対話が活発に行なわれましたことは、町並みの保存や活用に取り組む地元の自治体や住民に対しまして、大いなる示唆と勇気を与えていただいたものであり、日本イコモス国内委員会をはじめ関係各位に対しまして心からお礼申し上げます。

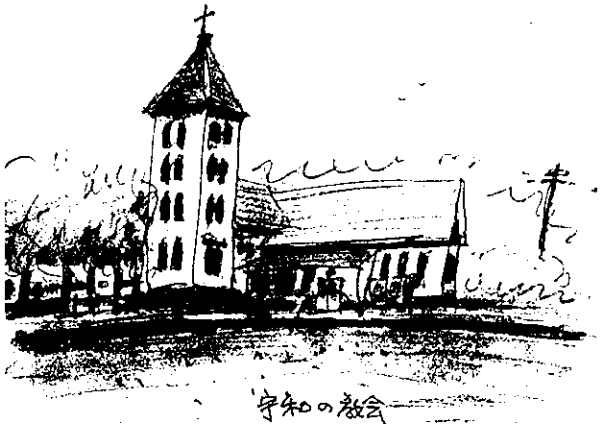
大洲市長　桝田與一

今回の世界会議が「町並みの保存」をテーマに、当市で開催されたことは、誠に意義深く、喜ばしいかぎりでございます。

素直な感想は、よい刺激になった、ということでございました。

専門家のご意見、また、地元の方の町並み保全に対する真摯な気持ちをお聞かせいただき、日頃気づかなかった点等を含め、大いに今後のまちづくりの参考にさせていただきたいと考えております。

国際町並みサミットin愛媛
「観光と共生する持続可能な町並み保存について」　内子町自治センター



町並み保存と観光の共存の原点となる貴重な論議に敬意

財団法人　日本システム開発研究所
国土・地域政策研究室長　矢下徳治

10月14、15日両日に開催された「国際シンポジウム」と「国際町並みサミットin愛媛」に参加させていただきました。

主催者も強調されていたように、内外の町並み保存活動関係者や専門家のみならず、イコモスの国際会議としては初の、関係者をはじめとする地元住民やまちづくり・地域おこしの活動家も参加したワークショップ方式も採り入れた公開型で開催されたことは、町並み保存活動が地元住民を核としながら、幅広い人々の理解と協力の上により大きな成果がもたらされることを強く意識化したものであり、画期的な意義をもつものであったといえましょう。

また、調査研究機関に所属しながら、一方で各地の住民主体の地域づくりの実践にも携わってきた私自身にとっても、保存技術の裾野を拡げる活動、地元の人々による町並み再発見の散策、保全活動の生きたデータベースづくりをはじめとする海外における多様な取り組みの報告など、大変参考になる内容を得ることができました。

さらに、町並み保存と観光との共存についての本格的な意見交換が行なわれたことも大きな意味をもつものと思います。これまでの町並み保存と観光との“不幸な出会い”について、保存活動側から率直に語られ、受け入れ総量の抑制、公共交通アクセスの重視など保存活動を持続可能なものとしていくための諸条件とともに、観光行動の質的な変化の底流を見据えた良質な来訪者との交流との持続的な交流・協力の必要性についても触れられたことは、町並み保存と観光の今後の新しい関係づくりの一つの原点となるものとも言えると思います。

サミットの場でも発言しましたが、地元関係者からは一括りされがちな観光客の側にも物見遊山型の団体旅行から一人ひとりがテーマをもち、学習志向を強く

もった旅行スタイルなど、新しい芽が育ってきていることにも目を向ける必要があります。何故、町並みに魅かれて来訪するのか、その最も根底には、歴史的町並みを保全し、そのなかで独自の生活文化、価値意識を貫こうとしている人々の生き方への共感があるといえます。共感を寄せる人々との間との絆を創りだしていくことは、町並み保存が直面する諸々の課題に対しても、例えばシビックトラスト的な方法による空屋の保全・活用など、様々な新しい取り組みの可能性を育むものになるのではないでしょうか。

最後に、両日の国際会議を主催された日本イコモス全国委員会、並びに15日のサミットを共催された国土交通省四国運輸局の皆さん、また、愛媛県、内子町、大洲市、西予市をはじめとする地元関係者の皆さんに心から御礼申し上げるとともに、両日の議論を糧として、地域づくり、まちづくりのなかで町並み保存と観光の共存のあり方を具体化するなかで活かしていきたいと考えております。

国際シンポジウム「民家町並みを語る世界の集い」　内子座にて

The ICOMOS-CIAV Conference 2004

Prof. Chester Liebs

In rural Ehime prefecture, while rice stalks dried suspended from horizontal racks in the freshly-harvested fields, a tradition dating back centuries, from October 12-16, 2004 Japan ICOMOS and the ICOMOS International Vernacular Architecture Committee (CIAV) held a pioneering conference on "Sustaining Traditional Architecture and Villages." The conference was co-sponsored by UNESCO's Asia/Pacific Cultural Center, Ehime's prefectural government, the Ministry of Land Infrastructure and Transport, the Japan Machinami Association, the Agency for Cultural Affairs, Matsuyama and Seiyo cities, and numerous other organizations.

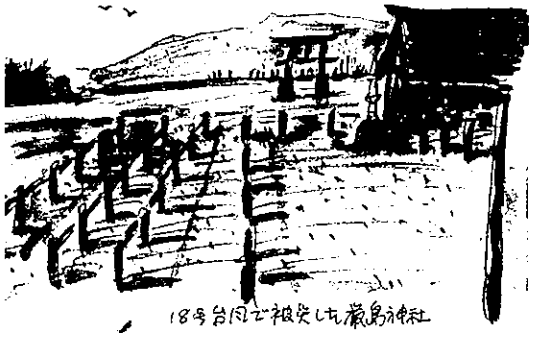
The event began on Wednesday with field visits, by international speakers and attendees representing sixteen countries, to three historic villages. In the former post town of Uwa, after hearing an orientation while seated in the tiny desks of a restored 1882 school, participants explored a restored streetscape of machinami (Japanese traditional merchant buildings) that survived because they were bypassed by newer merchant streets.. The second stop was Ohzu, a former castle town once divided into samurai and commoner's districts. Here many houses dating from the Taisho and Showa periods (early to mid twentieth century) still exhibited signs of daily life, such as wash hanging from verandas, in contrast to the "museum village" look of Uwa. The day ended in Uchiko, once famous for paper and candle wax production, where local residents posted before and after photos on the fronts of restored machinami, and participants dined in the evening, by Japanese-lantern light, on delicacies prepared by local residents.

Uckiko's 1916 historic kabuki theater became the first of two venues on Thursday where papers were presented on the conservation of vernacular villages from a variety of Japanese

and international perspectives. Then, on Friday morning, the speakers divided into three groups to hear presentations by local citizens of Uwa, Ohzu and Uchiko, on challenges facing the conservation of their communities ranging from convincing local people of the value of conservation to disruptions to daily life created by group tours. In the afternoon, after several more international papers, a lively discussion ensued regarding the benefits and liabilities of tourism, the need for including larger areas of towns for historic recognition, and the degree to which historic villages can be restored to a particular period of time without losing their authenticity and connection with history. The conference concluded on Saturday with an official meeting of the CIAV.

The conference was a great success. There was a broad range of sponsors, generous hospitality by Ehime prefecture and the various communities visited, and many excellent and relevant papers. Perhaps the most outstanding features of the confenerece was the chance for local people, both woman and men, to share their views with government officials, academics, and visiting specialists.

Conference speaker Chester Liebs is Adjunct Professor in the University of New Mexico's Graduate Program in Preservation and Regionalism, University of Vermont Professor Emeritus of History, and former Visiting Professor of Historic Preservation at Tokyo National University of Fine Arts and Music.



The comments of participants on the result through the programme of ICOMOS-CIAV Conference 2004 in Ehime

Ms. Kirsti Kovanen / Finland

Impression of the Programme : A well organized and impressive programme with a committed participation.

Useful/valuable activities of the program : Discussion that were extensive, bringing up common issues and problems, and the possibility to find solutions to own specific problems and in general.

The benefit of this programme : I will present the results of the conference in articles and include the lessons learned in my professional activities (conservation, awareness, education) and encourage to exchange programmes for the conservation field, concerning softwood structures and surface treatment.

Ms.Victoria Momeva Altiparmaakovska / Macedonia

Impression of the Programme : Very serious approach, well organized, excellent supporting team work. Big quantity and quality of new knowledge.

Useful/valuable activities of the program : 1) The most useful and valuable to see with you own. 2) To hear and to learn by the professionals and peoples directly involved in the process of conservation. 3) To communicate with the inhabitancy.

The benefit of this programme : Concerning I am the President of NCs (National Subcommittee) . I will have chance to transferred the new experiences with the members of the NCs in Macedonia and with the colleagues in my institution.

Ms. Wang Hui Jun / China

Impression of the Programme : The discussion was aggressive and creative. The participators are enthusiastic.

Useful/valuable activities of the program : The technical Tour before the symposium was the most valuable activities. We could know the town, people, lifestyle and so on in

the area. That made all participators can have discussion under the experience.

The benefit of this programme : We got the conclusion that communication and education are important things in Sustainable Conservation Systems for the Vernacular Architecture. I will begin to talk about the idea to the class in University.

Prof. Spencer Leineweber / USA

Impression of the Programme : Excellent, well organized, lots of information and interaction.

Useful/valuable activities of the program : Interaction with professional colleagues from around the world and particularity interaction with community members from historic towns. It provide a dimension and depth of personal contact that made understanding easier.

The benefit of this programme : I will integrate my knowledge into my course work at the University and also will include interactions more from the communities where my architecture work is. The community participation is key to success.

Prof: Miles Lewis

Impression of the Programme : Excellent.

Useful/valuable activities of the program : a) Technical visit. b) Meeting with members of the Community.

The benefit of this programme : a)Through teaching. b) Through conserving work.

Mr. Gisle Jakhellin / Norway

Impression of the Programme : Very good, a fine blend of excursion and discussion.

Useful/valuable activities of the program : 1) Visit to the towns and discussion with the local residents and authorities.

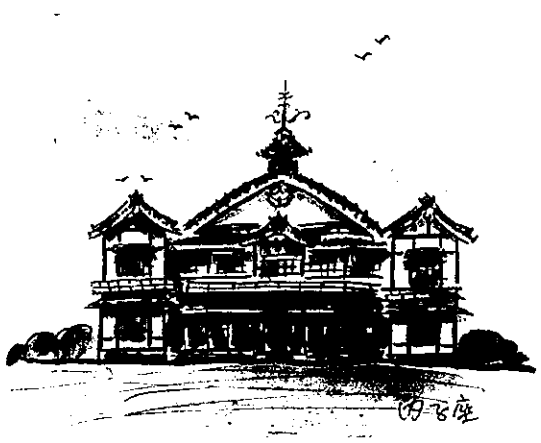
The benefit of this programme : 1) Bringing forward the need of a buffer zone around protected areas. 2) Stressing the necessity of residents' association in protected areas.

Ms. Valeria Prieto / Mexco

Impression of the Programme : It is very interesting for my working field, the preservation of vernacular architecture. And it was very well organized with balance between working session and the site we visit.

Useful/valuable activities of the program : The visit of the 3 preservation are as in different cities, because it is possible to appreciate reality in vernacular preservation in use (not as a museum). We observe the problems of tourism impact in this renovated area.

The benefit of this programme : I have a lot of information about problems and solutions on vernacular architecture preservation, through the other presentation of colleagues that are came from similar countries as mine, as how to deal with people to convince them to preserve their traditional buildings; and perhaps where to get some financial support.



The ICOMOS-CIAV Conference 2004 Post Conference Tourについて

文化財建造物保存技術協会　本田智子

平成16年10月16日午前中に松山コミュニティセンターにてCIAV年次会議が終了した後、Post Conference Tourはスタートした。Tourに参加されたのは海外からの専門家8名、また日本からは11名であった。

【16日午後】

Tourに参加されない方たちを松山空港と松山駅に送った後、バスは松山港に向かった。ここから弓削商船高等専門学校のご協力のもと、一路高速艇にて重要伝統的建造物群として選定されている広島県御手洗まで行った。

残念ながら御手洗では時間がなく、見学もかなり駆け足のものであった。しかし、参加者の方たちはボランティアガイドの方の説明と、70歳を越えた船大工の方が海に面した民家にて北前船の模型を作製していることなど大変興味深そうであった。

その後、駆け足で高速艇に戻り、弓削に向かった。弓削では地元のお祭り「下弓削区秋祭り」の見学をした。弓削町役場のご好意でICOMOSの専門家のために、敢えて秋の豊穣祭りをこのtourに合わせてくださった。このお祭りを見学しながら、カナダの専門家が地元の方としきりに「この祭りの記録は取っているのか」ということを話されていた。毎年、地元のケーブルテレビが取材に訪れ撮影を行っており、また近年では地域の老人の方たちから聞き取り調査も行なっているとのことなどについて話されていた。

お祭りの見学の後は高速艇にて尾道に向かい、初日の行程は無事終了した。

【17日】

二日目は朝7:30出発であったが晴天の中、スタートした。バスは鞆の浦に向かう。

鞆の浦ではNPO法人鞆まちづくり工房代表　松居和子さんが説明してくださった。鞆の浦では、町並み等に対する市からの助成金がうち切られる中、地元の方たちの力にて町並みを守っていこうという努力がなされている。特に港を埋め立て架橋するという公共事業計画が持ち上がっており、現在は住民運動などによりその公共事業計画が「ストップ（廃止ではない）」がかかっていることなどの説明があった。また鞆の浦はこのことによりWorld Monument FundsのWorld Monuments Watch-List of 100 Most Endangered Sitesの一つとして記載されている。

鞆の浦もまた時間がなかったが、それでもイコモスの専門家は松居さんからの説明を受けながら熱心にまわった。石畳みの歴史的な道の補修は国土交通省、住宅の修景は文化庁による補助金という事に対してどうして異なる省庁や関係者が一堂に会して話し合うような機会が設けられないのかという意見や、熱心に質問する姿などがあった。

またイコモスの専門家が敬意を表したものは、旧魚屋萬蔵宅再生プロジェクトである。江戸時代後期と推察されるこの建物は鞆港にほど近い商家で、歴史的には坂本龍馬が紀州藩を相手どり「近代法規に基づく海難事故交渉」を日本で初めて行なった場所でもある。この建物を再生することにより町並み保存のNPO法人の活動拠点とすること、また地元の技術者、職人によって修復を行ない、また地元住民をボランティアなどで巻き込むことにより地元の方たちの町並みに対する意識を高めるなどの目的が説明された。特に地元の技術者、職人、また住民を巻き込むことによりこのプロジェクトを地域のパイロットプロジェクトにしようとする努力に対してイコモスの専門家は敬意を表した。

鞆の浦の最後は、重要文化財太田家住宅にてお茶のおもてなしを受けた。短い時間であったが、最後には日本の伝統文化でお見送りしたいという地元の方たちの優しい心遣いに専門家は感謝していた。

鞆の浦を後にし、次は厳島神社へと向かう。フェリーで宮島に到着すると、すぐに対岸に見える高層ビル群を指さし、何人もの専門家から「神社からの景観を損なっている」「対岸の規制はどうなっているのか」などの意見が出た。しかし、神社そのものは、初めて訪れる方が多かったためか、海中を敷地とする神社の荘厳な姿に感動されていた。また台風の被害を受けた後で

あったために倒壊した建物の部材が集められた状況などを見学した。しかし、台風の被害は常にあり、またどのような被害を受けてもかならず修復するという厳島神社の歴史にたいしても感嘆されていた。

厳島神社を最後に、帰路についた。バスの中、専門家の方たち何人かがマイクをとり、会議シンポジウムのみならずPost Conference Tourの企画や準備に対する労いと感謝の言葉が述べられた。とてもなごやかな雰囲気の中で、バスは広島駅、広島空港へと向かい、「また来年中国で」と挨拶を交わしながらすべての日程は無事終了した。

お知らせ

元 ICOMOS 副会長 伊藤延男氏が文化功労者顕彰

日本イコモス国内委員会事務局

ICOMOS の元副会長であり、日本イコモス国内委員会の顧問である伊藤延男氏が、本年 11 月 4 日、文化功労者として顕彰されました。心よりお慶びを申し上げます。

総会のご案内でもお知らせしましたように、本年度日本イコモス国内委員会総会（12/11）に引き続いて、「伊藤延男先生を囲む会」ならびに「お祝いの会」が開催される予定です。

Australia ICOMOS E-Mail News No.148（抜粋）

2004 年 11 月 26 日

Australia ICOMOS 事務局より

1) World Industrial Heritage

The most recent Bulletin from TICIIH (the International Committee on the Conservation of Industrial Heritage) draws attention to the World Heritage Gaps Analysis report, World heritage Listing: Filling the Gaps an action plan for the future, available on

www.international.icomos.org/world_heritage/whlgaps.htm

The Gaps report notes that the overwhelming majority of proposed places are in Europe and North America. TICCIH is inviting people concerned with industrial heritage to send their views to Regina Duringhello at ICOMOS in Paris duringhello@icomos.org

2) Archaeological news

Latest archaeological discoveries and current research:

Europe:

Stonehenge and the prehistoric site of Tara in Ireland threatened by road construction:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=907

Numerous treasures from the Thracian era discovered in Bulgaria:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=765

Ancient Roman cosmetic cream found in England. Scientists were able to recreate the product:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=255

Asia:

Discovery of a 4,000-year-old megalithic site in Russia:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=906

Discovery of the Homo Floresiensis, a new species descended from the Homo Erectus:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=868

New interpretation of the plastered skulls from Near-East

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=908

Africa:

Discovery of a site dating from 700,000 BC in Morocco:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=874

Discovery of a palace dating back to the 18th Egyptian dynasty, decorated with wall paintings in the Cretan style:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=858

America:

New discoveries on the Tiwanaku civilization in Bolivia:

http://forum.archeo.info/viewtopic.php?t=848

The 8th US/ICOMOS International Symposium

2004 年 11 月 23 日

Mr. Gustavo Araoz (US/ICOMOS)より

Date: 5-8 May, 2005.

Place: Charleston, South Carolina.

HERITAGE INTERPRETATION: Expressing Heritage Sites Values to Foster Conservation, Promote Community Development and Educate the Public

（山田幸正）

日誌　事務局

（2004年9月1日～2004年11月18日）

2004年

9/1	「高速道路から世界遺産・平城京を守る会」事務局　小井修一氏より「声明」を4部受領
9/3	「町並み保存連盟」よりCIAV2004国際会議への名義使用承諾回答を受領 「日本ユネスコ協会連盟」より「ユネスコ」2004、9　vol.1093を受領 UNESCOより「THE WORLD HERITAGE news letter」number 45 June-July-August 2004を受領
9/4-9/10	ICOMOS　執行部・諮問委員会がノルウェイ、ベルゲン市で開催され、前野委員長、西村幸夫氏が出席
9/13	文化庁よりCIAV2004国際会議への名義使用許可受領
9/14	イコモス国内委員会　会員担当理事会議開催
9/25	イコモス国内委員会2004年次第3回拡大理事会を姫路にて開催、午前は姫路城見学会、理事会終了後研究会、懇親会開催
9/27	[JAPAN ICOMOS INFORMATION]　第6期3号を維持会員を含む全会員及び関係団体に順次送付
9/29	（財）ユネスコ・アジア文化センターより国際会議「有形文化遺産と無形文化遺産の保護一統一的アプローチをめざして一」の開催案内受領
10/12-16	ICOMOS CIAV 2004愛媛国際会議開催
10/16-17	ICOMOS CIAV 2004　ポストツアー、御手洗町並み、弓削祭、鞆の浦、厳島神社、視察
10/18-19	第5小委員会がHrtistina Staneva氏を招きプロヴディフ・プロジェエクト・ワークショップ開催（10/18関家住宅修理現場および　三渓園の見学、10/19 Staneva氏のプレゼンテーション、文化財保存計画協会会議室にて）
11/2	伊藤延男氏が文化功労者に選定され、イコモス国内委員会からお祝いの花を贈る
11/9	「宇治世界遺産を守る会」より「世界文化遺産・平等院の周辺景観の危機的損壊をこれ以上進行させないための緊急の現地調査と関係機関に対する助言勧告を求める要請書」受領
11/15	（社）日本ユネスコ協会連盟より「ユネスコ」2004　11.Vol.1094を受領
11/18	イコモス国内委員会　会員担当理事会議開催

日本イコモス国内委員会　維持会員（代表者）

株式会社　尾田組（尾田芳信）
株式会社　総合計画機構（糸谷正俊）
株式会社　乃村工藝社（乃村義博）
株式会社　文化財保存計画協会（矢野和之）
大成建設株式会社（葉山莞児）
西武建設株式会社（松下和徳）
株式会社　鴻池組（大岩祥一）
株式会社　都市環境研究所（矢嶋啓自）
株式会社　ブレック研究所（杉尾伸太郎）
「国宝松本城を世界遺産に」推進委員会（有賀　正）
株式会社　トリアド工房（伊藤民郎）
株式会社　京都科学　（片山　保）

（順不同）

日本イコモス国内委員会の活動には以上の企業のご支援をいただいております。

●日本イコモス国内委員会　理事会　JAPAN-ICOMOS EXECUTIVE BOARD

President	委員長	前野　まさる	Masaru MAENO
Trustees	理　事	赤坂　　信	Makoto AKASAKA
		稲葉　信子	Nobuko INABA
		岡田　保良	Yasuyoshi OKADA
		小野　　昭	Akira ONO
		河野　俊行	Toshiyuki KONO
		杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
		田中　哲雄	Tetsuo TANAKA
		西浦　忠輝	Tadateru NISHIURA
		濱崎　一志	Kazushi HAMAZAKI
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		益田　兼房	Kanefusa MASUDA
		町田　　章	Akira MACHIDA
		宮川　朝一	Asaichi MIYAKAWA
		矢野　和之	Kazuyuki YANO
		山田　幸正	Yukimasa YAMADA
		渡邊　保弘	Yasuhiro WATANABE
Auditors	監　事	沢田　正昭	Masaaki SAWADA
		西谷　　正	Tadashi NISHITANI
Advisors	顧　問	石井　　昭	Akira ISHII
		伊藤　延男	Nobuo ITO
		坪井　清足	Kiyotari TSUBOI

小委員会　WORKING GROUPS

Chiefs	主　査	藤井　恵介	Keisuke FUJII
		羽生　修二	Shuji HANYU
		日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
		稲葉　信子	Nobuko INABA
		石井　　昭	Akira ISHII

●国際諸委員会参加者　REPRESENTATIVE TO INTERNATIONAL COMMITTEES

Vice President	西村　幸夫	Yukio NISHIMURA
Advisory Committee	前野　まさる	Masaru MAENO
Specialized Committee on:		
Archaeological Management	小野　　昭	Akira ONO
	岸本　雅敏	Masatoshi KISHIMOTO
Analysis and Restoration Structures of Architectural Heritage	日高健一郎	Kenichiro HIDAKA
	坂本　　功	Isao SAKAMOTO
	西澤　英和	Hidekazu NISHIZAWA
Historic Towns and Villages	福川　裕一	Yuichi FUKUKAWA
	上野　邦一	Kunikazu UENO
Underwater Cultural Heritage	荒木　伸介	Shinsuke ARAKI
Training	稲葉　信子	Nobuko INABA
	工楽　善通	Yoshimichi KURAKU
Historic Gardens and Cultural Landscapes	杉尾伸太郎	Shintaro SUGIO
	本中　　眞	Makoto MOTONAKA
Vernacular Architecture	前野　まさる	Masaru MAENO
	大野　　敏	Satoshi OHNO
Wood	村上　裕道	Yasumichi MURAKAMI
	伊藤　延男	Nobuo ITO
	渡邊　保弘	Yasuhiro WATANABE
Earthen Architecture	岡田　保良	Yasuyoshi OKADA
Cultural Tourism	宗田　好史	Yoshifumi MUNETA
	石井　　昭	Akira ISHII
Legal Issues	河野　俊行	Toshiyuki KONO
Photogrammetry	西村　　康	Yasushi NISHIMURA
Cultural Routes	杉尾　邦江	Kunie SUGIO
Stone	西浦　忠輝	Tadateru NISHIURA
	石崎　武志	Takeshi ISHIZAKI
Risk Preparedness	益田　兼房	Kanefusa MASUDA
Rock Art	小川　　勝	Masaru OGAWA

JAPAN ICOMOS INFORMATION

Vol.6, No.4 10 DECEMBER 2004

日本イコモス国内委員会　委員長　前野まさる

事務局担当理事　矢野和之　　編集　山田幸正

〒150-0021　東京都渋谷区恵比寿西1-9-6　アストウルビル3階

株式会社　文化財保存計画協会　気付

Tel & Fax .03-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp

JAPAN-ICOMOS OFFICE

c/o Planning Institute for the Conservation of Cultural Properties

Asutouru Bldg.,1-9-6 Ebisu-nishi Shibuyaku Tokyo 150-0021, Japan

Tel & Fax .+81-3-5728-1621 e-mail jpicomos@kb4.so-net.ne.jp